

1992年における日食と月食

山口 正博

1992年には、地球全体として日食が3回、月食が2回、合計して5回の食が起こります。日食は、金環日食が1月5日(日)〔日付変更線より東側では4日(土)〕に太平洋中部で、皆既日食が6月30日(火)に西大西洋で、部分日食が12月24日(木)〔日付変更線より東側では23日(水)〕にシベリア東部、中国北東部および東部、北太平洋およびアラスカの一部で見られます。また月食は、部分月食が6月15日(月)に、皆既月食が12月10日(木)に起こります。

日本では1月5日(日)の朝に日出帯食(太陽が欠けたまま昇る日食)の後半が見え、東京では6時50分に右の下が36%欠けた太陽が東南東に昇り、これが全国で最大の食分です。福岡では7時42分、京都では7時44分、東京では7時47分、仙台では7時48分、札幌では7時49分に欠け終わってしまいますから、早起きの人だけが見られます。

また12月24日(木)の朝には、日本全国で部分日食が見られます。この日食は7時20分ころ福岡、7時22分ころ京都、7時23分30秒ころ東京、7時25分30秒ころ仙台、7時30分ころ札幌で上の右側から欠け始めます。食の最大は福岡で8時25分ころ43%、京都で8時32分ころ50%、東京で8時38分ころ54%、仙台で8時43分ころ59%、札幌で8時49分ころ66%、上の左側が欠けます。そして福岡で9時37分ころ、京都で9時52分ころ、東京で10時03分ころ、仙台で10時10分、札幌で10時17分ころに、いずれも左側の方向に欠け終わります。したがって1992年は1月5日(日)と12月24日(木)の朝に部分日食が見られます。

月食は、6月15日(月)の部分月食は日本標準時で欠け始めが12時26分、食の最大が13時57分で食分が69%、月の北側が欠けます。欠け終わりは15時27分です。日本では、昼間の月食で、全然見られません。

12月10日(木)の皆既月食は日本標準時で欠け始めが6時59分です。月入の時刻は、福岡で7時14分、京都で6時58分、東京で6時41分、仙台で6時46分、札幌で6時58分ですから、九州よりも西の地域と北海道の一部で月入帯食(月が欠けたまま入る月食)となります。皆既月食は8時07分から8時44分を中心に9時22分まで1時間15分も続き、欠け終わりは10時29分になります。これも日本では昼間の月食となり、見られません。